

## 2020年3月期 第3四半期決算の発表について

昭和産業株式会社(社長:新妻一彦)の2020年3月期第3四半期連結決算は、売上高 193,153 百万円、経常利益 8,995 百万円となりました。2020年3月期連結業績予想については、売上高 2,610 億円、経常利益 100 億円を見込んでおります。

### 【2020年3月期第3四半期連結決算】

当第3四半期連結累計期間の我が国経済は、個人消費の持ち直しや設備投資が増加基調を示すなど、景気は緩やかな回復基調で推移いたしました。その一方で、米中貿易摩擦や英国のEU離脱問題などの影響、また相次ぐ自然災害の発生や人手不足を背景とした人件費、物流費の上昇などにより、依然として先行きが不透明な状況が継続しております。

このような状況の中、当社90周年を迎える2025年度のありたい姿(長期ビジョン)「SHOWA Next Stage for 2025」の実現に向けた1st Stage「中期経営計画17-19」も最終年度を迎え、5つの基本戦略「①基盤事業の強化」「②事業領域の拡大」「③社会的課題解決への貢献」「④プラットフォームの再構築」「⑤ステークホルダーエンゲージメントの強化」の各種施策を着実に推進してまいりました。

当第3四半期連結累計期間では、「①基盤事業の強化」の施策については、今後顕在化してくる労働力不足への対応や価格競争力の確保のために、船橋工場内にプレミックス工場を新設することを決定いたしました。最新の自動化設備や、IoTによる高い生産性と、生産リードタイムの短縮、多品種小ロット生産を実現するとともに、食品安全についてもより一層追求してまいります。

さらに、「②事業領域の拡大」の施策については、台湾大成集団のグループ会社である「國成麵粉股份有限公司」および「中一食品股份有限公司」が今春実施する第三者割当増資に際して株式を引き受け、台湾において新たに「製粉事業」・「飼料事業(鶏卵)」に参入することを決定いたしました。増資後の当社の出資比率は、「國成麵粉股份有限公司」に40%、「中一食品股份有限公司」に35%となり、持分法適用会社とする予定です。

当第3四半期連結累計期間の経営成績は、連結売上高は193,153百万円と前年同期に比べ1,649百万円(0.8%)の減収となりました。営業利益は7,786百万円と前年同期に比べ432百万円(5.9%)の増益、経常利益は8,995百万円と前年同期に比べ484百万円(5.7%)の増益、親会社株主に帰属する四半期純利益は6,912百万円と前年同期に比べ847百万円(14.0%)の増益となりました。

### 【2020年3月期連結業績予想】

第4四半期以降も為替や穀物の相場動向など、当社グループを取り巻く経営環境は不透明な状況が続くものと予想されますが、2019年5月9日に公表した2020年3月期(2019年4月1日~2020年3月31日)の連結業績予想につきまして変更はありません。

以上

<本件に関する報道関係の方のお問い合わせ先>

昭和産業株式会社 経営企画部 コーポレート・コミュニケーション室 担当:赤松

TEL:03-3257-2042